南小だより　R4．1．7

南　風

＜ 令和３年度　第 17 号＞
発行：玉村町立南小学校
群馬県佐波郡玉村町角渕5011
電話：0270-65-9000
http://www.town.tamamura.ed.jp/minami-e/

新年そして3学期のスタート！

　新年明けましておめでとうございます。皆様にとって本年がよりよい年になりますようお祈り申し上げます。また、３学期も本校の教育活動にご支援、ご協力の程、よろしくお願いいたします。
　今年は十二支では「寅」で、動物では「トラ」が当てられています。トラは獰猛で力強い動物なので、ことわざでも「虎視眈々」「虎穴に入らずんば虎子を得ず」など、チャンスを活かしたり、勇気を持ってチャレンジしたりする意味に使われますね。児童たちには、ぜひ１年の目標を立てて様々なことに取り組み、力を伸ばしていってほしいと思います。
　さて遅くなりましたが、12 月の行事や表彰を以下で紹介いたします。

5･6年生「いのちの大切さ」講座

　12 月 10 日（金）に５・６年生では、助産師さんを講師に招いて「いのちの大切さ」講座を実施しました。お母さんのお腹の中での胎児の成長の様子や心臓の音、産まれるときの厳しい状況などを、実物大の人形や模型、音や動画などを用いて丁寧にお話してくださいました。誰もが「生きているだけで 100 点満点」、誕生日は「いのちの記念日」なのですね。

6年生薬物乱用防止教室

　12 月 22 日（水）に６年生では、ライオンズクラブの方を講師に招いて「薬物乱用防止教室」を実施しました。タバコや違法薬物などの様々な害、中毒性、依存性などの恐ろしさ、通常の医薬品でも用法を守ること等を、お話や動画で詳しく説明していただきました。「ダメ、ゼッタイ」「やったらおしまい」などの言葉を、しっかり心に留めておきましょう。

「みなみの郵便ポスト」のメッセージ

　人権週間に合わせて設置した「みなみの郵便ポスト」には、たくさんのメッセージが寄せられ、職員室前のホールや各学年の廊下に掲示されました。「ありがとう」「すごいね」「これからもよろしく」などの感謝や賞賛の気持ち、思いやりの気持ちが伝わる温かい言葉でいっぱいになっていました。

子どもが夢を叶えるために「親としてできること」とは？

お正月に「今年の目標」について話し合われたご家庭もあったことと思います。しかし、今後の目標や将来の夢などが漠然としていたり、さらには、中学生くらいになるとすでに夢や憧れの職業をあきらめてしまったりしている子どももいると聞きます。親としてどのように関わったら、夢を持って叶えようとする子どもへと成長していくのでしょうか。

～可能性を伸ばしてあげよう～

子どもは、元来好奇心旺盛なので、なりたい職業や今やりたいことは必ずしも結び付きません。「パティシエになりたい」と言っている子が「ダンスを習いたい」というのは、ごく普通のこと。こうした子どもの「やりたい」は、可能性を伸ばすチャンスです。

●やりたいときが伸びるとき！

子どもが習い事などを「やりたい」と言いだしたら、まずはチャンス。秘めた才能を伸ばせるときと考えて、可能ならやらせてみるのが一番です。その際、必ず「やりたい」理由を確認しましょう。親に理由を説明することで、子どもが自分の意思を再確認できる、という効果もあります。

●今を逃したらダメな習い事も

体操やダンス、バレエなど、体の柔軟性が重要な競技は、始める時期が早いほど良いといわれます。また囲碁や将棋の奨励会のように、資格取得に年齢制限が設けられているケースもありますから、始めどきは見極めたいものです。子どもの興味や特性を考え、早めに情報収集しておくのが良さそうです。

●スケジュール調整が、習い事継続のカギ

新しく習い事を始めるときは、スケジュール調整にも十分注意しましょう。日々何かの習い事に通っていて学校との両立が大変、という事態は避けたいものです。子ども本人ができる範囲でチャレンジさせてあげてください。

●途中で辞めても、ムダにはならない

子どもが「何に対しても飽きっぽい」「長続きしない」と悩んではいませんか？。でも、大丈夫。子どもの時期には、必ずしも「途中で辞めること＝悪いこと」ではないからです。成長過程まっただ中の子どもたちは、すべての経験を糧にすることができます。始めなければ分からなかったことや、出会わなかった人たちなど、習い事を通じて経験できたことが必ずあるはずです。だから、途中で辞めても、ムダにはならないのです。

～プロの仕事を体感させよう～

習い事を通して、子どもの好みはだんだんと集約されていくでしょう。その次に親が提供できるのは、子どもがサッカークラブに入っているならＪリーグの試合を、ピアノやダンスを習っているなら演奏会やミュージカルなどの舞台をといった、本物の迫力に触れさせることです。

●プロスポーツやプロのステージなど、本物の迫力は心を揺さぶる！

プロスポーツなら、試合前からだんだん盛り上がっていく様子や、各種スタッフ、警備などテレビに映らない人の動きを見ることができます。会場の熱気や興奮も伝わり、心が揺さぶられるような刺激も多いものです。プロの演奏会や舞台なら、目の前で全力で演じる奏者や役者に夢中になることもあるでしょう。「親が自分のために、時間とお金をかけて連れて行ってくれた」という体験や思い出は、今後の財産にもなります。

●模擬体験をさせよう！

体験型の社会資源（〇〇教室、キッザニアなど）を活用するのもおすすめです。子どもにとって、仕事をしている姿や制服などはかっこよく見えるものです。様々な職業の模擬体験ができれば、強く印象に残ります。例えば、ショップ体験をした後にお店に入ると、販売している商品や接客態度など、細かいところにも関心が向き、新たな興味に結びつきやすくなります。

～自信をつけ、やる気を育てる。親は子どもの応援団！～

子どもの成長を応援する過程で注意してほしいのは、兄弟や同級生と比較するのではなく、過去と今とを比較して、成長をポジティブに示してあげることです。こうして自信を持たせることが、次のステップへの後押しにもなります。そして、親は子どもの応援団であること、応援しているのは「夢の実現」より「子ども自身」であることを、繰り返し伝えましょう。子どもにきちんと向き合って励ませば、自信につながります。

子どもが夢を語りやすい雰囲気づくりと、夢に向かって努力するための環境づくり、このふたつが親の腕の見せどころです。「子どもが夢を叶えられる」ように、しっかりサポートしていきたいものですね。

（以前の「南小だより」から再編集）